

平成30年 2月 8日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題 平成29年産販売額3億4千万円を突破！30年産の栽培はじまる！

(ダイジェスト)

西いわみぶどう部会の総会が11月21日に開催されました。平成29年産は、生食用でステップアップ規格を意識した生産者の栽培努力により高単価の時期に例年以上に高品質な果実が生産され、加工用でも新農薬の導入等により病虫害の発生を抑えることができた結果、販売額は平成8年以来の3億4千万円を突破しました。この結果を踏まえ、意気込みを新たに、平成30年産の栽培がはじまっています。

西いわみぶどう部会は県内主要ブドウ産地の一つで、早出しデラウェア、巨峰、加工（ワイン）用ブドウの生産量は県内一を誇ります。

今年度、栽培面積39.6ha（前年比99.5%）と若干面積が減少している中で『消費税別で3億円突破！』を部会目標とし、生産者一丸となり高品質な果実づくりと単収の向上に取り組んだ結果、販売額は消費税抜き3億2千万円（税込み3億4千万円：前年比109.4%）となりました。

平成29年産は、平成28年産同様に暖冬の影響で発芽に必要な低温遭遇時間がなかなか確保できない状況で栽培が始まりました。デラウェアについてはゆる房づくりへの意識が高まっていることに加えて、梅雨期における徹底した品質管理が行われたことから裂果等の発生を抑えることができました。その他の品種でも、生育期の記録的な高温や、さらには8月以降の天候不順により着色不良や収穫期の遅れ等懸念されましたが着果管理や新梢管理の徹底により優れた品質のものが出荷されました。ワイン用でも新たな農薬の導入に併せ、防除適期の判断材料となる病害虫の発生情報を定期的に詳しく伝えることで、発生を抑えることができ、生産量は前年比127%となる206tとなりました。

世代交代を迎えている西いわみぶどう部会では、長年栽培を行っている果樹経営のプロである親世代と若い世代が協力し合い、『3億円突破』『収量向上』を目標に本年産もスタートしました。早い園では4月のデラウェア初出荷に向け、12月から加温が始まっているところです。当普及部では、平成30年産でも高品質な生産のための技術支援をはじめとして、島根ぶどう（益田ぶどう）の産地が今後も維持・発展できる仕組みづくりのため、生産者や関係機関とともに産地ビジョンを考え、新規就農者のサポート体制構築にも取り組んでいきます。

写真

左：平成29年産

デラウェアゆる房づくり

中：シャインマスカット化粧箱

右：平成30年産

デラウェアのジベレリン処理

